

# TAMABI NEWS

Tama Art University News Magazine

vol. 91

A photograph showing two students, a man and a woman, leaning over a large, intricate white architectural model. The model consists of numerous white blocks and plates arranged to form a complex, multi-level structure. The students are focused on their work, with their hands positioned to adjust or examine different parts of the model. The background is a plain, light blue wall.

## 新たな価値を 生み出す場所

「八王子キャンパス展」開催

「Tama Design University」がグッドデザイン賞を受賞





## キャンパス展に見る価値創造の原点

創る・魅せる・考える・交わるを一度にかなえる

常に新たな教育を求める多摩美術大学の原点は、1929年に開校した帝国美術学校に遡ります。さらなる美術教育の向上のために北聆吉校長が唱えた専門学校への昇格、上野毛への移転の構想を巡って分裂し、1935年に多摩帝国美術学校が誕生しました。大学設置後、文部省の設置基準に沿った将来計画のために1960年から八王子校地を購入、1971年に新入生を迎えたところから八王子キャンパスの歴史が始まります。

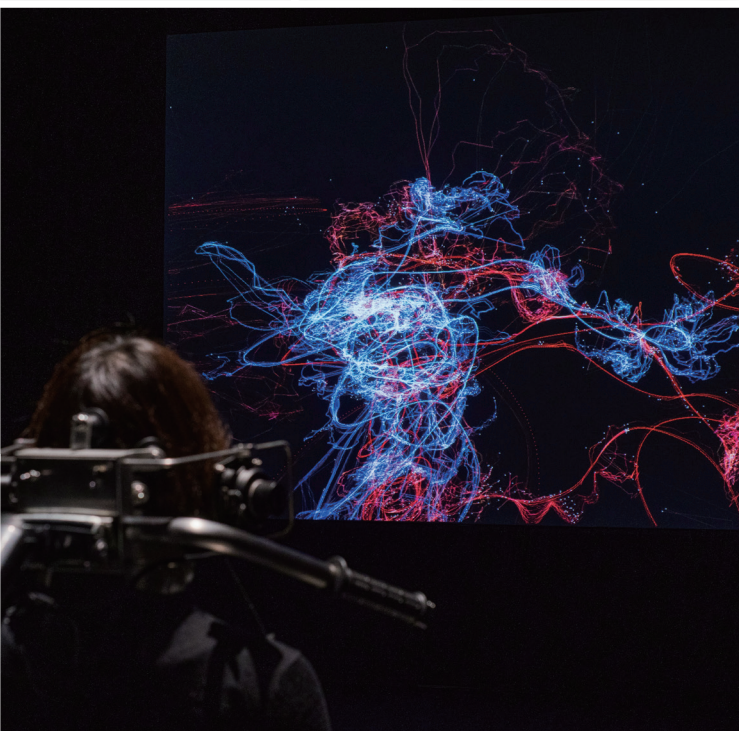
今回の「八王子キャンパス展」は、その後1994年から始まったキャンパス整備計画に携わって来たキャンパス設計室に大学が企画を依頼しました。今回はその設計コンセプトを紹介しながら多摩美の半世紀を振り返ります。ここにある全ての建物や付随するデザインには、表

現によって社会に新たな価値を生み出す人材育成のためさまざまな意図や思いが込められています。キャンパス設計室長（環境デザイン学科）の田淵諭教授らが目指したのは、学生の交流と刺激を促進する空間をつくること。創作に取り組むだけでなく、各学科に用意されたギャラリーで人々に魅せる力を育み、講評会によって思考が鍛えられ、多様な価値観を持った同世代のクリエイターたちと交わることで化学反応が生まれる。創る・魅せる・考える・交わるを一度にかなえることができる空間なのです。田淵教授から伺った話をもとに、あらためてキャンパスの魅力に迫りたいと思います。



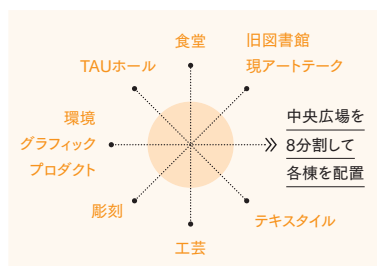
# 新たな価値を生み出す場所

表現によって社会に新たな価値を生み出す人材の輩出。「自由と意力」という建学の精神のもと、多摩美術大学が果たしてきたその使命によって、トップクリエイターを世の中に送り続けてきました。使命を全うするためには、教育方針やカリキュラム、教職員のみならず、それを支える環境が重要な意味を持っていると考えています。11月14日より開かれる「八王子キャンパス展」をきっかけに、あらためてキャンパスを振り返ってみたいと思います。



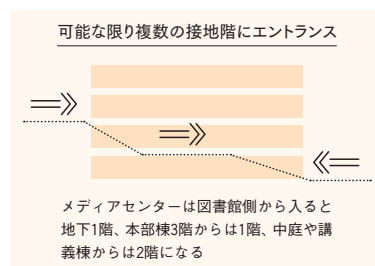
## 各学科棟をつなぎ、 交流を促す中央広場

学生の創作と表現の拠点となる各学科棟は、全て中央の広場から見えるように配置されています。広場を起点として45度に分割することで、8方向に向けて均一に各学科棟へアプローチ。中央広場は新入生歓迎イベントに利用されるなど、季節ごとに多様な交流が生まれています。



## 複数の接地階に エントランスを設ける

八王子校地は高低差が41mあり、坂の多さや急勾配な斜面が設計上の課題でした。しかしこの点を逆に生かし、建物に複数のエントランスを設けることで自由な出入りが可能になりました。本来デメリットとされる特徴をメリットに変えるのが、デザインの成せる業です。



## アートテークにて 「八王子キャンパス展」開催

八王子キャンパスは、どのようなコンセプトを持って設計されたのか。2022年11月14日(月)から30日(水)までアートテークギャラリーで開催される『八王子キャンパス展』では、配置検討の際の模型や設計中のスケッチなどの展示とともに、キャンパス設計の歴史を振り返ります。







## 作品を創り魅せることで 新たな発想が生まれる

作品を創造するために不可欠なのは、それを魅せる「場」です。学生が創作活動を行う各学科棟にはギャラリーが併設され、展示や活動を通じて、新たなアイデアが生まれます。ジャンルを超えた交流の現場を紹介しましょう。

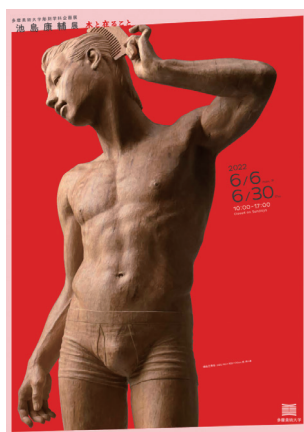
### 各学科棟の1階にあるギャラリーがもたらす力

各学科棟に併設されたギャラリーは、1階のエントランスに設けられているため、違う学科の学生でも気軽にアクセスできるパブリックな場です。上野毛キャンパスにも、演劇舞踊スタジオやギャラリーなどを設置しています。作品を制作するだけでなく、教員からの講評や学生同士の意見交換を経験することで、次につながる新たな考えや可能性に気づく。ギャラリーを利用したワークショップや、卒業生の若手作家による企画展、産学共同の研究発表、異なる領域の合同展示の場としても使われ、新たな発想の萌芽が次々と誕生しています。



#### デザイン棟ギャラリー 環境デザイン 3年生合同展示

ダイニングチェア・ロッドチェア・建築・ランドスケープの4課題による合同展示。異なる領域の表現が一堂に会することで、相互に刺激を受ける機会となった。プロダクト、グラフィックの課題展示も行われる。



#### 彫刻棟ギャラリー 彫刻学科企画展 池島康輔展「木と在ること」

彫刻領域の可能性を追求する若手作家を招いて開催している企画展。今年には卒業生で彫刻家の池島康輔氏。神話や死生観などのモチーフを日本の伝統的な木彫と西洋由来の彫刻の系譜を咀嚼して表現した作品が展示された。

#### 絵画棟ギャラリー 油画・浅井裕介先生による 特別ワークショップ『野生のドローイング』

感覚を研ぎ澄ませて体全体で描いた線を集積する試み。昨年は絵画棟ギャラリーの2階で制作し、学生と教員が無呼吸状態で描いた線を集めた。完成した一連の作品を1階ギャラリーの天井高を生かして展示した。



#### 情報デザイン棟ギャラリー BIGLOBE×情報デザイン 産学共同研究 公開講評会

産学共同研究の成果発表の場として活用されることも。昨年度のBIGLOBE×情報デザインコースの「もうひとつの通信」に関する研究ではオープンキャンパスで公開講評会を行い、同社社員の視点からのコメントを受けた。





### 学内外のさまざまな視点に触れる **オープンキャンパス**

夏のオープンキャンパスでは、各学科の学生が授業で取り組んでいる作品を展示。2022年度には夏・秋2回の実施で延べ8,000名強が来場した。創作活動の魅力を多くの人にプレゼンテーションして意見交換をする交流の場になっている。

## 分野を超えた表現に触れ 新たな視点を獲得する

各学科棟ギャラリーでは日常的に課題作品の展示が行われていることに加え、学生の作品が一斉に発表されるオープンキャンパスや卒業制作展も貴重な機会です。こうした場で自分の専門分野だけでなく他学科の作品からも刺激を受けることができるのは、多様な領域の学生が集う美術大学で学ぶメリットのひとつ。分野を超えた表現から刺激を受け、自らの創作活動にも新しい可能性を見出します。ともに教員や学生だけでなく外部にも開かれた作品展示であるため、フラットな批評と出会うことができる環境。こうした場で作品を魅力的に発信することを目指して、日々学生たちは創作活動に取り組んでいます。



### 学科の枠を超えて触発し合う **PBL成果発表会**

PBL科目は、所属学科や学年の垣根を超えて、横断的研究や社会的課題に挑戦するプロジェクト型授業。異なる専門的なスキルを持った学生が触発し合うことで、幅広く柔軟な考え方や新たな創造を生み出している。PBL成果発表会では、その成果を学生や企業、地域の方々など学内外に発信。



### 4年間の集大成を広く提示する **卒業制作展**

学科・専攻・コースごとに1月と3月の2回に分けて、4年間の集大成となる作品を展示する卒業制作展を実施。加えて学科合同の「選抜展」も開催。公開で行う講評会、特別授業、ギャラリーツアーなど創作のフィードバックにつながっている。



## キャンパスにしながら ホンモノの表現と出会う

キャンパス内には、異なる特徴を持つギャラリーを併設する「アートテーク」、誰もが自由にアクセスできるコミュニケーションの場「アーケードギャラリー」、大規模なイベントが開催可能な「レクチャーホール」など、作品を通して思考し、コミュニケーションを促す空間が数多く存在します。トップクリエイターの展示やイベントも行われるこれらのスペースは、アートや人との出会いの場になっています。

知と創造を多面的に発信する――

### アートテーク



世界的なグラフィックデザイナー田中一光展などの企画展や芸術学科企画の展示のほか、竹尾ポスターコレクションなど貴重な資料を所蔵するアートアーカイブセンターがある。

自由なコミュニケーション空間――

### アーケードギャラリー



朝日広告賞入賞作品展や、生命・再生の象徴としての「渦巻文様」に着目し、そのデザインの変遷を辿る展示「渦巻の大宇宙」を実施。授業で制作した作品を展示する場にも。

刺激的なディスカッションの場――

### レクチャーホール



日本を代表するアニメーション映画監督の細田守氏を招いた特別講義を実施したほか、情報科学芸術大学院大学・東京大学大学院などと協働で国際シンポジウムを開催したことも。



# 感性を刺激し発想を広げる さまざまな仕掛け

ギャラリーやアートテークだけでなく、豊かな自然を生かした授業や多摩美ゆかりの作家による屋外彫刻作品の数々が点在するなど、八王子キャンパスには学生たちの創作意欲に働きかけるさまざまな仕掛けがあります。これら数々のこだわりがどのように多摩美生の学びに生かされ、学生生活を彩っているのかをご紹介します。



## NATURE

### 自然そのものから学ぶ授業が 発見する力を鍛える

自然に囲まれた多摩美のフィールドだからこそ得られる体験もあります。そのひとつが、環境デザイン学科で1年次に経験する、キャンパス内に自生する竹を使った課題。キャンパス内の好きな場所に設置することを想定し、竹としゅる縄を用いた空間造形作品をつくります。竹の持つ特性をよく理解し、「涼を感じることができる空間」を創



テキスタイルデザイン1年次「藍染実習」



環境デザイン1年次カリキュラム「竹で空間を創る」

出することを目指します。また、テキスタイルデザイン専攻では1年次に「藍染実習」を実施。藍を栽培することから始まり、染色、作品制作に発展させます。創造性を刺激するリアルな環境を舞台に、自然の中で生きた素材と向き合い五感を刺激されながら新たな表現を発見します。



### 自然が並ぶ通りを歩き、 思索に耽る

八王子キャンパスの各棟へのアプローチや外周道路には、楠や桜、樺、柳、山桜といったそれぞれ特徴のある樹木が植えられています。キャンパスをつくる前からあった柳を移植した柳通りなど、自然に囲まれた空間がデザインされています。創造に行き詰まったとき、この道を歩きながらさまざまな思いを巡らすことができます。



さくら通り

## PLANT

### キャンパスには実が食べられる植物も

多摩丘陵の緑を保存するために、もともとあった雑木林や竹林を可能な限り残しているのに加え、ウメやナツミカン、ビワといった実ができる木々の植栽も行いました。これらは空間を彩るアイテムでありつつ、おなか为空いたときには、なっている実を食べてしまっても問題ないのだから。遊び心あふれる空間デザインが施されています。

※ウメの実には生で食べるできません。  
また、知らない植物を無闇に食べるのはやめましょう。





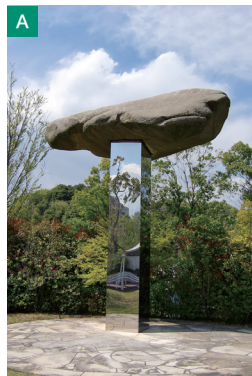
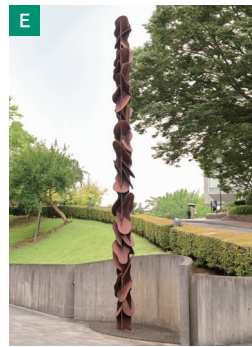
## ART

# 巨匠たちの彫刻が並ぶ キャンパスという名の野外ギャラリー

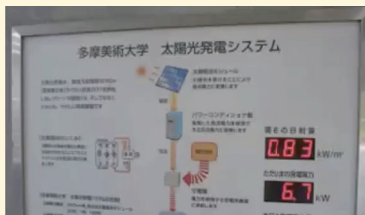
「キャンパスのようなキャンパス」を目指し、キャンパス内には多摩美の教員や多摩美に関係した芸術家たちが手がけた作品が、環境に溶け込むように点在しています。中には、つい見過ごしてしまうような場所にも。学生は常にホンモノのアートに囲まれながら友人と語り合い、作品制作に取り組んでいます。



- A: 関根伸夫「空想」
- B: 建島覚造「Piled Cone」
- C: 建島覚造「オルガンII」
- D: 石井厚生「時空・140-旅人-」
- E: 五十嵐威暢「Dragon Spine」
- F: 工藤健「懐かしのマンドーラ」
- G: 若林審「振動尺 傾斜の中の手」
- H: 笠置季男「力」
- I: 小田真「円と方形の啓示」
- J: リチャード・セラ「反転し合う直角、ヘキサグラムの基礎板を取り囲むために」
- K: 中井延也「暁」
- L: 竹田光幸「走り行く手」
- M: 長澤英俊「TINDARI」



## POINT 環境への配慮から図書館までまだまだあるこだわりの数々



### ● 各所に凝らされた環境への配慮

センサーを使って照明の明るさを調節する省エネシステムや、雨水を地下にある受水槽で溜めてトイレの排水に利用するなど、環境配慮に特化しています。



### ● 表参道と同じ4.5%の勾配

図書館前の坂道は4.5%勾配（100m歩いて4.5m上がる）。人間工学的に負荷を感じずに登れる勾配で、原宿の表参道やパリのシャンゼリゼ通りと同じ構造です。



### ● 寄り道したくなる図書館の配置

図書館は、バス停に近く登下校の途中で寄りやすい場所にあります。知と創造の場であると同時に、アーケードギャラリーなどの交流の場にもなっています。



2022年度グッドデザイン賞を受賞したバーチャル大学の「Tama Design University (TDU)」。デザインの役割が拡張する時代に、オンラインとリアルハイブリッドによって学びの場を設け、デザインを問い直し、デザイン意識の高い人材を増やす取り組みが評価されました。その拠点となった「Tama Art University Bureau (TUB)」のディレクターで、TDU開催の指揮も務めた永井一史教授の話をもとに活動を振り返ります。



TAMA  
DESIGN  
UNIVERSITY

## 「Tama Design University」が グッドデザイン賞を受賞

### 我々はこれからの世界をどうデザインできるのか？

「Tama Design University (TDU)」は、2021年12月の1ヶ月間に限り東京ミッドタウン・デザインハブに出現したバーチャルな美術大学です。ここでは「デザインとは何か」を問い直し、再定義する多彩な講義を毎日実施。会場に設置された仮設の教室あるいはオンライン配信によって、誰もが無料で受講できるようにしました。

多摩美術大学がこうした講義を広く一般に向けて発信する背景には、デザインの知識を仕事の手法や経営などに活かしたいとする社会環境に対応する狙いがありました。デザイン的な創造性や美意識を社会にどう実装し得るか——この問いを社会に投げかけ、思考することが美術大学としての役割でもあります。

グッドデザイン賞審査委員による評価の中でも、専門のデザイナーに限らず幅広い人がデザインについて知り、活用し、未来を切り開いていくことへの期待感が語られています。その上で、TDUが受講条件や費用の垣根をなくし、開かれた学びの場として多様なコミュニケーションを可能にした点が高く評価されました。

### 社会とつながり 新たな広がりを作る場



TAMA  
ART  
UNIVERSITY  
BUREAU

### 六本木という場からデザインとアートの本質を考える



TUBディレクター／統合デザイン学科 永井一史教授

日本デザイン振興会 (JDP) をはじめ、デザインに関する国内の主要機関が運営する東京・六本木のスペース「東京ミッドタウン・デザインハブ」。2021年4月、この場所にデザインとアートの持つ創造性と美意識を社会とつなぐ場として多摩美術大学が「TUB (Tama Art University Bureau)」を開設しました。美術館やギャラリー、企業オフィスが集結し、新たな価値創造が活発に行われる六本木の場所性も活かしながら、「まじわる・うみだす・

ひらく」をコンセプトに多彩な教育プログラムや展覧会を開催しています。

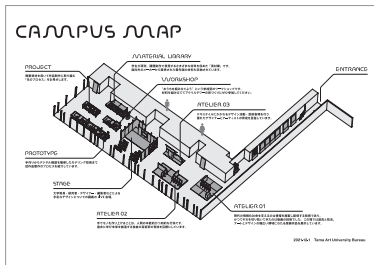
コンセプトの背景にあるのは、先行きが不透明な「変化の時代」にあって、物事の本質を今一度問い直し、新しいものを生み出していくこととする社会的な要請です。これに、多摩美術大学が長い歴史の中で蓄積してきたデザインとアートの知、そして美意識が応えられるのではないか——。この問題意識のもと、八王子・上野毛キャンパスでは出会うことの



# TAMA DESIGN UNIVERSITY

## 社会にデザインを より浸透させていく

実際に講義が行われた会場にはTDUの大学構内をイメージした正門や守衛所などが設置され、美大のキャンパスが再現されました。総来場者数は4,000人を超え、アーカイブ配信された講義動画の視聴者数は4万人、総視聴回数は13万回を記録。受講生を対象に実施したアンケート※によると、全体の約60%が「会社員・団体職員」、続いて約15%が「自営業・フリーランス」でした。また、「何かしらの領域のデザイナーか？」の問いには約55%が「非デザイナー」と回答。この数字について永井教授は、「一般の人々のデザインに対する関心の高さを明らかにすると同時に、コロナ禍で人の生活習慣が変わる中、大学の知を広く



※WEBサイト上で「学生登録アンケート」としてメールアドレスの登録とともにアンケートを実施。有効回答数は2,726件



届けるための開かれた教育の可能性を感じさせるものとなりました」と成果を振り返りました。

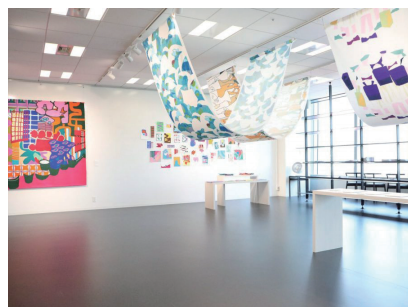
開講された授業は、専門化されたデザインの各領域を突き詰めて考えるだけの内容ではありません。いわゆる、デザイナーとしての技術や知識、教養を修得する授業とは、性格を異にします。むしろエンジニアリングやアート、フィロソフィー、サイエンス、エデュケーションといった隣接する分野において、デザインの領域をどのように拡張・横断していくかを志向する試みでもありました。ここにも、「専門的な技術よりも社会のデザインリテラシーを上げていくことが狙いであり、デザイン的な思考を『民主化』していくことに重きを置いている」(永井教授)というTDUのコンセプトが反映されています。

開催した50講座はいずれもこれからの時代の社会的ニーズを見据えた先端的な内容となりました。行政や教育、AI、バイオテクノロジーといったキーワードがその一例です。登壇する講師陣も大学の枠を超え、実に多彩な分野で活躍する第一線の研究者や実務家が大半を占めます。あらゆる組織や人がまじわり、質疑や対話を通して新しいデザインの本質を問い直しました。



なかった人々ともつながり、新しいデザインの位置づけや意味付けを問い直し、研究し、発信する場としてTUBは機能しています。

社会課題は複雑化・高度化し、その解決のために求められる創造性やデザインの力は一部のデザイナーだけが担えるものではなくなりました。広く社会全体がデザイン思考を身につけ、イノベーションに活かすことができるよう、TUBは人や産業間をつなぎオープンイノベーションを推進していきます。



昭和大学×多摩美術大学テキスタイルデザイン専攻

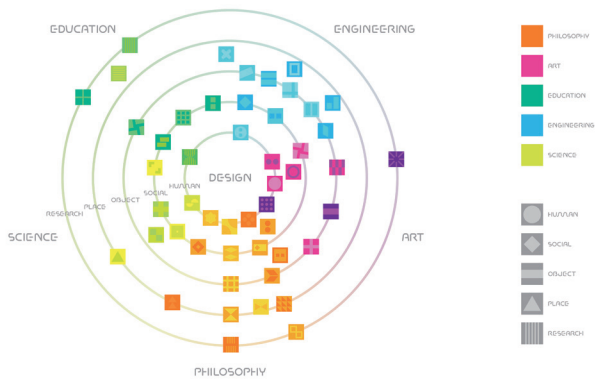
包括連携協定を結ぶ昭和大学との合同企画。テキスタイルデザイン専攻の学生が昭和大学江東豊洲病院で行った作品展示や医療現場との対話をもとに、テキスタイルの「素材」「色」「形」が人々の心にどう寄り添うか、その効果や意義を考えました。



Tama Creative Guild×デュポン・MCC

学科を跨いだ学生コミュニティ「Tama Creative Guild」がデュポン・MCC株式会社と共同で人工大理石「コーリアン®」を用いた作品を制作・展示。学生の視点で、素材の特性を活かしたカトラリーやレコードなどの作品を提案しました。





TAMMA  
DESIGN  
UNIVERSITY

# 領域を拡張し、 深め、問い直す プログラム

「Tama Design University (TDU)」で開講された全50講義の中から、デザインの定義を問い直す3つのキーワードをもとに、注目の講義動画をピックアップ。デザイン領域の広がり、デザインという行為の深化、テクノロジーとデザインの関係について振り返ります。

## 世の中から期待されるデザインは ますます「上位概念化」している

従来のデザインといえば、例えば本の装丁や家具、パソコンなどの「モノ」が対象でした。しかし、世の中から期待されるデザインの対象は「モノ」からサービスやUX（ユーザーエクスペリエンス）といった「コト」へ、さらにビジネスや政治などの「システム」にまでフロンティアは広がり上位概念化しています。

「モノ」や「コト」のデザインとは異なり、複合的な事象が絡まり合う社会システムのデザインは容易ではありません。そこで、今求められているのがデザインのあり方を問い直す動きです。講義では、拡張するデザインの基本に立ち戻りつつ、社会構造を変革するような新しい「システム」のデザインについても語ってもらいました。



上平崇仁 DESIGN ATTITUDE  
デザイン研究者、専修大学教授

### さまざまに枝分かれし続けるように 見える「デザイン」の もっとも根幹となることは何か？

拡張し続けるデザインの根幹を考える講義です。その糸口として、「教育」と「経営」の場における「問題の捉え方を再構成し、新たな選択肢を創出する」デザインの態度について解説。さらに突き詰め、デザインの側面である「再現性」をキーワードとして、生活の中にある「気遣う」行為と「仕組みをつくる」行為を補完し続けるような新しいデザインの態度を提案します。



吉田泰己 POLICY DESIGN  
経済産業省情報プロジェクト室長、デジタル庁企画官

### デジタルテクノロジーを通じて社会システムは どのように変わりうるか？

コロナ禍で世の中が急速にデジタル化する中、日本の行政サービスにおけるデジタル化の遅れが浮き彫りになっています。これからの行政サービスを、デジタル技術を用いてデザインするにあたっての課題とは？ 講義では、従来の立案重視の行政プロセスを、ユーザー体験を起点にして構築し直す必要性に言及。解決策として、官民がフラットに話し合い、連携して政策を共創し、ユーザーへの行政サービスの届け方を考える新しい統治デザインの可能性を考えます。



## 現在も視聴可能なTDUの講義

ほかにも第一線で活躍されている研究者、実務家による、幅広いテーマの講義が実施されました。その多くについてはアーカイブ動画が公開されており、現在も視聴することができます。



深澤直人 INTEGRATED DESIGN

### 日常に溶け込むデザインとは？

多摩美術大学統合デザイン学科教授、日本民藝館館長、プロダクトデザイナー。2003年にNAOTO FUKASAWA DESIGNを設立。人の想いを可視化する静かで力のあるデザインに定評がある。



岩渕正樹 TRANSITION DESIGN

### 我々は、いかにして生きたい22世紀をデザインできるのか？それは「デザイン」なのか？

デザイン実践者・研究者。JPモルガン・チェース銀行 デザインストラテジスト、東北大学特任准教授。2020年パーソンズ美術大学修了後、日米で社会規模の文化・ビジョンのデザイン研究・実践に従事している。



廣村正彰 SIGN DESIGN

### デザインの速度とは？

多摩美術大学 環境デザイン学科客員教授。田中一光デザイン室を経て、1988年廣村デザイン事務所設立。グラフィックデザインを中心に、美術館や商業、教育施設などのサインデザイン、CI、VI計画を多く手がける。





## 実験を繰り返し「深化」させていく、デザインの重要な態度のひとつ

TDUの講義で扱うテーマは国内や国外、社会システムや個人の創作活動と多領域に跨るものの、いずれもデザインという創作活動について考え、学ぶという点で通底しています。その意味で、デザインやクリエイションの根幹である「気付き、考え、つくり、広める」というプロセスをデザイナーがいかに深化させているかという視点を持つことは重要です。

そこで、日々さまざまな実験を通して自らの作品世界や知覚を創出しているデザイナーによる講義を紹介。彼らはいかにして、新たなデザインの地点を開拓しているのでしょうか。これらの講義では、領域横断的な水平方向への広がりに対し、深化を続けるデザインの修練について具体的な作品事例をもとに学ぶことができます。



岡崎智弘 ACCUMULATE DESIGN  
SWIMMING代表、多摩美術大学情報デザイン学科非常勤講師、グラフィックデザイナー

## 完成を目指さないデザインとは何か？

岡崎氏がコマ撮りの手法で制作する実験動画「STUDY」は、作品制作における「完成」の概念を無くしたとき、そこに何が立ち現れるかを確かめる試みです。講義ではコマ撮りの過程を、自身の表現ではなく「もの」の動きと世界の構造との関係性を観察し、つなげる行為と位置づけました。そして、アイデアを派生させながらひたすら「蓄積」する試みを「Accumulate Design」と名付け、その本質を考えます。



菅俊一 COGNITIVE DESIGN  
多摩美術大学総合デザイン学科准教授、コグニティブデザイナー

## 行動や判断の手がかりはデザインが可能なのか？

デザイナーの仕事とは、制作物を通じて人の行動や判断のもととなる「手がかり」をデザインすることといえます。この、人の行動や判断（=人の心）を対象とした「Cognitive Design」による、「手がかり」のデザインの試みを紹介しします。



菊池諒 AUTOMATION DESIGN  
ZeBrand Inc. Chief Executive Officer

## デザインがオートメーション化される時、人間は何をすべきか？

あらゆる場面で、AIやオートメーション化による人の労力の代替が起きています。ではデザインの領域におけるオートメーション化とはどのようなものなのでしょうか？講義では最新の事例を交えながら、オートメーション化できるデザインとそうでないデザインを考えます。また、コンピュータを強力なデザインの素材として使いこなしながら、人が得意とする創造性を発揮し組み合わせる「オートメーションデザイン」の必要性を提唱します。



## AI、NFT、メタバース——進展する「テクノロジー」とどう向き合うか

デザイン領域におけるもうひとつの大きな流れとして、多様な方向へ進展するテクノロジーに対して人々がいかに向き合っていくべきか、いかに共生することができるかという問題意識があります。

AIやNFT、メタバースにみられるように、人間の自然な身体や能力がテクノロジーと融合し、拡張していく未来は目前にあります。すでにAI技術によってデザイナーの脳の働きを代替し、ブランドコンセプトや世界観を創出するといった取り組みを行う海外のスタートアップ企業も出現し、人間の仕事が機械に取って代わられるという危機感が高まっています。また、デザインの対象も実空間の「モノ」からAR空間やNFTなどへ多層的な広がりを見せています。そうした近い将来に、デザイナーや私たち人間にできることは一体何でしょうか？実際に先端的な取り組みを行っている講師を招き、今後求められるデザイン思考のあり方を探りました。

川崎和也 MULTIDIMENSIONAL DESIGN  
Synflux株式会社代表取締役CEO、  
スペキュラティブ・ファッションデザイナー、デザインリサーチャー



## 情報空間と実空間をまたぐ「複数の現実」のためのファッションとは？

現在、ファッションはバイオやデジタルといった領域と融合しつつあります。現実のファッションに対する3Dファッション、両者の間にあるARファッションなど空間的にも混ざり合う中で、各領域を行き来しつつデザインが求められています。講義ではその最新の事例を紹介。



丸山新 VISUAL COMMUNICATION DESIGN

## 行動するデザインとは？

&Form代表/デザイナー。スイスのキアツ市立美術館のアートディレクター、南スイス州立大学SUPSIのデザイン・コラボレーターを経て、2012年、デザインスタジオ&Formを設立。



高尾俊介 CREATIVE-CODING

## 何のために、誰のためにコードを書くのか？

クリエイティブコーダー、甲南女子大学文学部メディア表現学科講師。短いコードを書く習慣を続けながら、プログラミングを日々の生活や文化と結びつける活動として「デイリーコーディング」を提唱、実践。



田中美帆 SOCIAL DESIGN

## 共創で社会をつなぐ、ソーシャルデザインとは？

多摩美術大学、横浜国立大学YCCS、東京工業大学EDP 非常勤講師。ソーシャルデザイン・ファーム、株式会社cocoro代表。Royal College of Art グラフィックデザイン修士号取得。



大林寛 EXPERIENCE DESIGN

## これまでもこれからも変わらないデザインとは？

株式会社オーバーキャスト代表。デザイン思想系メディア「ÉKRITS / エクリ」の発行人/編集長。専門はエクスペリエンスデザイン。東洋美術学校クリエイティブデザイン科 エクスペリエンスデザイン講師。





# 学校法人多摩美術大学 令和3年度会計報告

自 令和 3年4月1日  
至 令和 4年3月31日

## 1 資金収支計算

### 【資金収支計算総括表】

資金収支計算について、その主な内容を報告します。

▼収入の部 (単位:千円)			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	7,822,440	7,822,884	△444 ①
手数料収入	216,410	217,004	△594
寄付金収入	7,000	14,869	△7,869 ②
補助金収入	650,400	698,273	△47,873 ③
(うち、国庫補助金収入)	(650,000)	(691,385)	(△41,385)
( 〃 地方公共団体補助金収入)	(400)	(6,888)	(△6,488)
資産売却収入	200,000	200,000	0 ④
付随事業・収益事業収入	177,970	196,925	△18,955 ⑤
受取利息・配当金収入	65,000	71,469	△6,469 ⑥
雑収入	210,593	223,921	△13,328
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	3,367,150	3,787,457	△420,307
その他の収入	517,687	523,194	△5,507
資金収入調整勘定	△3,198,180	△3,260,549	62,369
当年度資金収入合計(A)	10,036,470	10,495,447	△458,977
前年度繰越支払資金	14,259,314	14,259,314	—
収入の部合計	24,295,784	24,754,761	△458,977

- ① 収容定員数を確保しているため、安定的な財政基盤を維持できております。
- ② 多摩美サポーター基金による恒常的な募集により予算額を上回りました。また、前年度よりも寄付件数が増加しました。
- ③ 私立大学等経常費補助金5億2,705万円、うち特別補助1,914万円(成長力強化に貢献する質の高い教育1,360万円、大学院等の機能の高度化1,779万円)の交付がありました。昨年度より一般補助は5,828万円増額し、特別補助は1,097万円減額しましたが、予算額を上回りました。
- ④ 銀行債2億円の有価証券満期償還額です。
- ⑤ 多摩美オリーブ館オープンによる寮費等収入により補助活動収入が増加しました。多摩美術大学クリエイティブリーダーシッププログラム講座(TCL)による公開講座収入の増加、受託研究収入の増加により予算額を上回りました。
- ⑥ 長期金利は低水準が継続していますが、銀行の定期預金から債券の新規購入による資産運用額を増額し、運用利回りを高めたことにより予算額を上回りました。

▼支出の部 (単位:千円)			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	4,167,350	4,089,752	77,598 ⑦
教育研究経費支出	2,511,199	2,224,521	286,678 ⑧
管理経費支出	538,550	494,102	44,448
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	210,000	149,459	60,541 ⑨
設備関係支出	379,800	248,245	131,555
資産運用支出	3,025,360	3,016,963	8,397 ⑩
その他の支出	436,635	433,071	3,564
予備費	365,450	—	365,450
資金支出調整勘定	△432,925	△291,105	△141,820
当年度資金支出合計(B)	11,201,419	10,365,008	836,411
翌年度繰越支払資金	13,094,365	14,389,753	△1,295,388 ⑪
支出の部合計	24,295,784	24,754,761	△458,977
当年度資金収支差額(A)-(B)	△1,164,949	130,439	△1,295,388

- ⑦ 教職員数の増加により、人件費が前年度より増額しましたが、予算額に対しては決算額が下回りました。
- ⑧ 昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により大学入構禁止期間があり、教育活動の一部が制限されてきました。そのため当年度は光熱水費、営繕費、学生管理費、支払報酬、業務委託費等が前年度決算額よりも増加しました。また、消耗品、奨学費、通信費などの減少もあり、予算額を下回りました。
- ⑨ 八王子キャンパス…防災設備更新工事、絵画北棟受変電機器更新工事、デザイン棟5階空調設備(FCU)更新工事。東京ミッドタウン(TUB)…5階壁面造作工事。上野毛キャンパス…2号館201・207・208教室コンセント増設工事、2号館3階自由デッサン室LED化工事を実施しました。
- ⑩ 減価償却引当特定資産を10億円増額(合計113億円)しました。多摩美サポーター基金により第3号基本金引当特定資産を増額しました。有価証券を新規に2億円購入しました。
- ⑪ 上記により翌年度繰越支払資金が予算対比では増加、前年度決算額対比では1億3,044万円増加しました。

## 2 事業活動収支計算

### 【事業活動収支計算総括表】

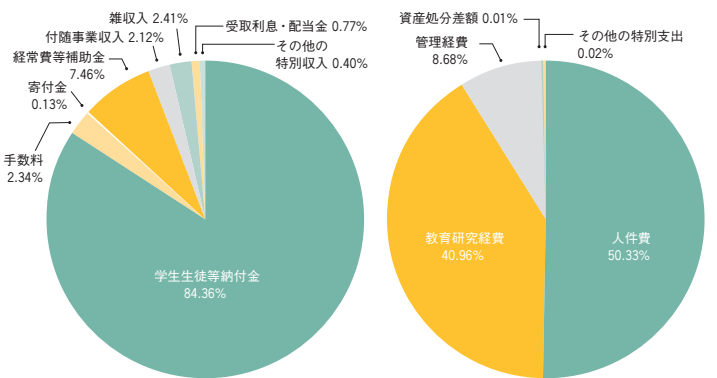
事業活動収支計算について、その主な内容を報告します。

(単位:千円)			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	7,822,440	7,822,885	△445
手数料	216,410	217,004	△594
寄付金	7,000	12,481	△5,481
経常費等補助金	650,400	691,536	△41,136
付随事業収入	177,970	196,925	△18,955
雑収入	210,243	223,285	△13,042 ①
教育活動収入計	9,084,463	9,164,116	△79,653
人件費	4,182,250	4,096,071	86,179 ②
教育研究経費	3,620,699	3,333,689	287,010 ③
(うち減価償却額)	1,109,500	1,109,142	358
管理経費	752,600	706,109	46,491
(うち減価償却額)	215,500	213,448	2,052
徴収不能額	0	0	0
教育活動支出計	8,555,549	8,135,869	419,680
教育活動収支差額	528,914	1,028,247	△499,333
科目	予算	決算	差異
受取利息・配当金	65,000	71,469	△6,469
その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計	65,000	71,469	△6,469
借入金等利息	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	0	0	0
教育活動外収支差額	65,000	71,469	△6,469
経常収支差額	593,914	1,099,716	△505,802

- ① 退職金財団からの交付金、科学研究費補助金間接経費等により予算を上回りました。
- ② 職員人件費、退職給与引当金は前年度実績より増加しましたが、予算額に対しては下回りました。
- ③ 前年度実績比では、光熱水費、学生管理費、業務委託費等が増加しましたが、減価償却額、奨学費等の減少により、全体額は予算を下回りました。
- ④ 安齊重男写真作品現物寄付423点2,245万円、科学研究費補助金から購入された教育研究用機器備品の寄贈や施設設備に対する補助金等がありました。
- ⑤ 図書汚損・紛失・除籍による処分差額です。
- ⑥ 上記の結果、事業活動収入は9億2,269万円となり予算を上回りました。また、基本金組入前当年度収支差額比率は12.2%になりました。これは今後の継続的な施設整備計画の資金に充当されます。当年度の収支差額は△5億8,261万円となり、翌年度繰越収支差額は△31億6,979万円となりました。この繰越収支差額は、将来計画にかかる基本金の先行組入れや借入金に頼らない施設設備充実の結果生じた基本金組入れによるもので、長期的な改善を計り、今後も事業活動収支の均衡がとれた運営を目指します。

注：基本金組入前当年度収支差額比率=基本金組入前当年度収支差額÷事業活動収入×100

科目	予算	決算	差異
資産売却差額	0	0	0
その他の特別収入	44,650	37,105	7,545 ④
特別収入計	44,650	37,105	7,545
資産処分差額	5,000	726	4,274 ⑤
その他の特別支出	1,450	1,441	9
特別支出計	6,450	2,167	4,283
特別収支差額	38,200	34,938	3,262
[予備費]	367,400	—	367,400
基本金組入前当年度収支差額比率(注)	2.9%	12.2%	—
基本金組入前当年度収支差額	264,714	1,134,654	△869,940
基本金組入額合計	△1,635,820	△1,717,267	81,447
当年度収支差額	△1,371,106	△582,613	△788,493
前年度繰越収支差額	△2,587,176	△2,587,176	0
翌年度繰越収支差額	△3,958,282	△3,169,789	△788,493
事業活動収入計	9,194,113	9,272,690	△78,577 ⑥
事業活動支出計	8,929,399	8,138,036	791,363





### ③ 貸借対照表(兼財産目録)

貸借対照表について、前年度からの増減を報告します。

令和4年 3月31日

▼資産の部 (単位:千円)			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	(59,497,452)	(57,888,187)	(1,609,265)
有形固定資産	(36,737,289)	(37,625,443)	(△888,154)
土地 (198,947.99㎡)	14,275,479	14,275,479	0
建物 (116,956.70㎡)	16,377,037	17,056,808	△679,771 ①
構築物 (370件)	1,963,284	2,123,947	△160,663
教育研究用機器備品 (12,315点)	954,459	1,045,411	△90,952 ②
管理用機器備品 (556点)	194,155	217,747	△23,592
図書 (232,411冊)	1,515,468	1,480,698	34,770
美術参考品 (8,685点)	1,384,964	1,358,704	26,260 ③
美術参考資料 (380種)	71,178	64,231	6,947
車両 (8台)	1,265	2,418	△1,153
特定資産	(20,265,217)	(17,766,146)	(2,499,071) ④
第2号基本金引当特定資産	6,519,625	5,019,625	1,500,000
第3号基本金引当特定資産	376,851	375,806	1,045
減価償却引当特定資産	11,300,000	10,300,000	1,000,000
退職給与引当特定資産	2,008,179	2,001,862	6,317
多摩美術大学創立80周年記念奨学基金引当特定資産	60,562	68,853	△8,291
その他の固定資産	(2,494,946)	(2,496,598)	(△1,652)
電話加入権 (38台)	2,273	2,273	0
ソフトウェア (14件)	47,782	57,922	△10,140
有価証券	2,434,205	2,425,913	8,292
うち、(1) 利付国債	634,205	625,913	8,292
◇ (2) 財投機関債	100,000	100,000	0
◇ (3) 銀行債	1,000,000	1,200,000	△200,000
◇ (4) 事業債	700,000	500,000	200,000
差入保証金	10,686	10,434	252
長期貸付金	0	56	△56
流動資産	(14,729,122)	(14,531,515)	(197,607) ⑤
現金預金	14,389,753	14,259,314	130,439
未収入金	264,369	205,417	58,952
前払金	74,093	65,535	8,558
立替金	907	1,249	△342
資産の部 合計	74,226,574	72,419,702	1,806,872

▼負債の部 (単位:千円)			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	(2,008,179)	(2,001,862)	(6,317) ⑥
退職給与引当金	2,008,179	2,001,862	6,317
流動負債	(4,346,586)	(3,680,685)	(665,901)
未払金	238,180	371,335	△133,155
前受金	3,787,477	2,996,200	791,277
預り金	320,929	313,150	7,779
負債の部 合計	6,354,765	5,682,547	672,218

▼純資産の部 (単位:千円)			
科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	(71,041,598)	(69,324,331)	(1,717,267)
第1号基本金	63,665,122	63,448,900	216,222 ⑦
第2号基本金	6,519,625	5,019,625	1,500,000
第3号基本金	376,851	375,806	1,045
第4号基本金	480,000	480,000	0
繰越収支差額	(△3,169,789)	(△2,587,176)	(△582,613)
翌年度繰越収支差額	△3,169,789	△2,587,176	△582,613
純資産の部 合計	67,871,809	66,737,155	1,134,654
負債及び純資産の部 合計	74,226,574	72,419,702	1,806,872

▼減価償却額の累計額 (単位:千円)			
科目	本年度末	前年度末	増減
減価償却額の累計額	26,908,621	25,867,040	1,041,581
基本金未組入額	30,844	103,778	△72,934

① 八王子キャンパス防災設備更新工事、絵画棟受変電機器更新工事、デザイン棟5階空調設備(FCU)更新工事他。  
 ② PC、プリンター他。  
 ③ 安齊重男写真作品423点他。  
 ④ 第3号基本金引当特定資産は寄付金による基本金増により105万円の増加。減価償却引当特定資産残高は10億円増額し113億円。退職給与引当特定資産残高は退職給与引当金が増加したことから632万円増の20億818万円。多摩美術大学創立80周年記念奨学基金引当特定資産残高は奨学金給付による取崩し960万円と寄付金及び利付国債債券による運用益131万円との差額29万円の減少。保有の有価証券は、引当特定資産分を含め59億3,464万円(令和4年3月末現在の取得価額に対する評価はプラス1億954万円)で前年度比30億円の増加。  
 ⑤ 現金預金残高は前年度比1億3,044万円増加し143億8,975万円、学生寮(オーリー館)寮費等の未収入金が5,895万円増加し2億6,437万円、前払金は856万円増加し7,409万円。  
 ⑥ 退職給与引当金残高は316名分で632万円増加の20億818万円。  
 ⑦ 第1号基本金＝令和3年度の組入額(資産取得)4億2,502万円と前年度未組入れ高の組入れ分1億378万円の合計から当年度除却資産分の基本金組入額2億8,174万円と未払金による未組入れ分3,084万円を除いた2億1,622万円を組入れました。

### ④ 財務比率 | 平成31年度から令和3年度 |

\*芸術系平均値は、日本私立学校振興・共済事業団【今日の私学財政】令和3年度版より算出しました。

項目	算式	評価	平成31年度	令和2年度	令和3年度	芸術系平均値
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{經常収入}}$	▼	45.0%	43.6%	44.4%	52.9%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	▼	50.8%	50.5%	52.4%	65.7%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{經常収入}}$	▼	6.2%	4.4%	7.6%	10.1%
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{經常収入}}$	▼	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
事業活動支出比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}}$	▼	87.3%	91.2%	87.8%	99.4%
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入-基本金組入額}}$	▼	107.3%	99.7%	107.7%	112.4%
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	▼	78.7%	79.9%	80.2%	88.2%

#### 【比率分析の見方】

- 人件費比率＝經常収入に対する人件費割合を示す比率で低い方が望ましい。
- 人件費依存率＝学生生徒等納付金に対する人件費割合で一般的には低い方が望ましい。
- 管理経費比率＝經常収入に対する管理費用の割合で低い方が良い。本学では特に節減に力を入れている。
- 借入金等利息比率＝低い方が良い。本学は平成30年度に完済となり、借入金は無い。
- 事業活動支出比率＝人件費や管理経費、教育研究経費などで消費された比率で低いほど安定し自己資金は充実する。
- 基本金組入後収支比率＝「事業活動収入-基本金組入額」に対する事業活動支出の割合で低い方が良い。100%を超えると支出超過。
- 固定資産構成比率＝総資産に占める固定資産の割合で低い方が良い。比率が高くなる場合は流動性に欠ける。

項目	算式	評価	平成31年度	令和2年度	令和3年度	芸術系平均値
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	▼	9.0%	7.8%	8.6%	11.0%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	△	5.7%	6.7%	7.5%	10.7%
基本金組入比率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	△	18.6%	8.6%	18.5%	11.6%
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	△	99.8%	99.8%	100.0%	97.4%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{經常収入}}$	△	35.8%	43.2%	36.1%	37.7%
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{經常収入}}$	△	88.5%	86.4%	84.7%	80.5%
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{經常支出}}$	—	16.7%	14.4%	16.3%	13.9%

- 総負債比率＝低い方が良い。総資産に対する他人資金の割合、50%を超えると負債総額が自己資金を上回る。
- 補助金比率＝高い方が良い。私立大学等経常費補助金や競争的資金等の積極的な獲得のための取り組みが必要。
- 基本金組入比率＝資産の充実のためには高い方が良いとされる。
- 基本金比率＝基本金組入対象(教育研究用)資産の自己資金取得による割合で高い方が良い。
- 教育研究経費比率＝經常収入に対する教育研究活動費用の割合で高い方が良い。
- 学生生徒等納付金比率＝經常収入に対する学生生徒等納付金の割合で經常収入の中で最もウエートが高く安定推移が良い。学費のみに依存しない体制作りが重要。
- 減価償却額比率＝經常支出に対する減価償却額の割合で、実質的には消費されずに留保される資金。

#### まとめ

令和3年度末における本学の財政状況は、学費収入を柱とした安定した収入と、適正な予算配分と管理による支出を徹底することで、しっかりとした経営基盤を維持しています。この良好な状態は各財務比率でも示されています。本学は継続的な人件費支出の圧縮や管理経費支出の節減等により、新規の施設設備整備計画に当てるための資金ストックや毎年度の収支差額に不足はなく、今後も安定的な教育運営資金が確保されています。

会計・事業報告につきましては、右のQRコードからご覧いただくことができます。





# AWARDS

## アートアワードトーキョー 丸の内 2022で 卒業生の池上創さんがグランプリを受賞



池上創「生命の息吹樹II」

22年工芸卒業・池上創さんの卒業制作が「アートアワードトーキョー 丸の内 2022」でグランプリを受賞しました。一般の方からの投票数が最も多い作家に授与されるオーディエンス賞にも選出されており、ダブル受賞となりました。また、22年油画卒業・鈴木創大さんが審査員今村有策賞を、22年彫刻卒業・柴田まおさんが審査員木村絵理子賞とOCA TOKYO賞を、22年日本画卒業・ネルソン・ホー・イー・ヘンさんが審査員建昌哲賞を受賞しています。本アワードは全国の主要な美術大学・芸術大学・大学院18校の卒業修了制作展の中から作品を厳選し、若手アーティストの発掘・育成を目的に開催される現代美術の展覧会です。本年は丸の内、常盤橋エリアを中心に行われ、今回で16回目の開催となります。5,000点以上の作品の中から発掘した194点がノミネート。そこからさらに25作品が厳選され、9月15日から28日の間、各会場にて展示されました。



ネルソン・ホー・イー・ヘン「間の交響曲」



柴田まお「Blue mask」



鈴木創大「Reversible Tent, flag, googol」

撮影：木奥恵三（4点とも）

## 第25回グラフィック「1\_WALL」で 大学院2年趙文欣さんがグランプリを受賞

若手アーティストを発掘するコンペティション「第25回グラフィック『1\_WALL』」で、大学院統合デザイン2年・趙文欣さんがグランプリを受賞しました。また、油画3年・タツルハタヤマさんがファイナリストに選ばれています。趙さんは「最も自然でリアルな人の姿を見守り、記録するため」に監視カメラの視点を用いた映像作品を制作し、ブラウン管テレビに映し出す展示空間を構成。趙さんには約1年後の個展開催の権利とその制作費30万円が贈られます。展覧会は6月28日～7月23日、ガーディアン・ガーデンで行われました。



趙文欣「Void Space | 真空空間」

## 卒業生の伊東ケイスケさんが 3年連続でベネチア国際映画祭にノミネート

10年グラフィックデザイン卒業・伊東ケイスケさんが監督したVR演劇「Typeman」が「第79回ベネチア国際映画祭」クロスリアリティ(XR)部門「Venice Immersive」にノミネートされました。「Typeman」は演者と複数の体験者が同時にバーチャルワールドに入り、間近で鑑賞したり、コミュニケーションをとりながらストーリーを進めたりして楽しんでもらう作品です。また、9月9日にリド島で行われたイタリアの独立系映画評論家が独自に選出する併設のアワード「プレミオ・ピサト・ドーロ（金鰻賞）2022」では最優秀短編賞を受賞しました。



伊東ケイスケ「Typeman」



## 大学院生の小野坂葉子さんが 第57回神奈川県美術展で大賞を受賞

「第57回神奈川県美術展」工芸部門で、大学院テキスタイルデザイン1年・小野坂葉子さんが大賞を、工芸2年・金久琴美さんが美術奨学会記念賞を受賞しました。また、平面立体部門



小野坂葉子「Sight」

で大学院日本画2年・林銘君さんが特選、油画・馬場美桜子助手が県議会議長賞を受賞しました。本展は新進作家の育成と美術愛好家の創作活動の発表の場として1965年から続く公募美術展で、今年は全国から1,084点の応募がありました。

## 四日市萬古陶磁器コンペ2022で 大学院生の井上菜々子さんがグランプリ

「第36回四日市萬古陶磁器コンペ2022」で、大学院工芸2年・井上菜々子さんがグランプリとU40特別賞をダブル受賞しました。萬古陶磁器振興協同組合連合会が主催する本コンペは、約300年の伝統を誇る萬古焼の振興を目的に行われています。今回は「ときめくどうぶつの器」をテーマとしたオリジナル作品が募集され、全106点の中から井上さんが同コンペ初となるダブル受賞を果たしました。



井上菜々子「Tea Time Set PEN's Flower Shop」

## SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2022で 卒業生の若林萌さんが優秀作品賞を受賞

デジタルシネマにフォーカスした若い才能の発掘と育成をめざした「SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2022」国内コンペティションの短



若林萌「サカナ島胃袋三腸目」

編部門で、15年映像演劇卒業・若林萌さんのアニメーション作品「サカナ島胃袋三腸目」が優秀作品賞を受賞しました。また、本作は5月にドイツ・フランクフルトの「ニッポン・コネクション」でワールド・プレミアされたほか、「第33回東京学生映画祭」アニメーション部門でグランプリを受賞しています。

## 空間ディスプレイのアワードで 環境デザイン学生が受賞

公益財団法人乃村文化財団主催の「2022年学生卒業設計・制作 NCF 空間ディスプレイアワード」で、22年環境デザイン卒業・石黒裕美さん



石黒裕美「ハツ沢水力発電所美術館」

が優秀賞を、同・大野彩佳さんと李豪さんが奨励賞を受賞しました。本アワードは、空間ディスプレイ分野における新たな価値を切り拓く作品、研究、その他の活動に対して表彰ならびに賞金授与を行い、同分野の更なる活性化と空間ディスプレイによる社会貢献の可能性を広げることを目的としています。

## SICF23で山本アンディ彩果副手が 準グランプリを受賞

「SICF23（第23回スパイラル・インディペンデント・クリエイターズ・フェスティバル）」EXHIBITION部門で、情報デザイン・山本アンディ彩果副手が準グランプリを、17年



山本アンディ彩果「記憶の在処」より

大学院彫刻修了・櫻井隆平さんがスパイラル奨励賞を受賞しました。本展は複合文化施設スパイラルの主催による公募展形式のアートフェスティバルで、若手作家の発掘・育成・支援を目的に毎年行われています。5月3日から8日に行われた展覧会最終日に各賞が発表されました。

## 日本学生BtoB新聞広告大賞で 統合デザイン2年の井原花奈さんが特別賞

「第7回日本学生BtoB新聞広告大賞」で、統合デザイン2年・井原花奈さんが審査委員会特別賞を受賞しました。一般社団法人日本BtoB広告協会と日刊工業新聞社が主催する本賞は、若い世代がBtoBビジネスに対する理解を深め、BtoB企業の活性化を図ることを目的としています。井原さんは総合部品メーカーNOK株式会社の課題「ポストコーン（車線規制、視線誘導標）」に取り組み、反射板の光を効果的に利用した写真とインパクトのあるコピーで受賞となりました。



井原花奈「ポストコーンより」



## 田淵諭教授による多摩美オリーブ館照明デザインが照明施設賞を受賞

環境デザイン・田淵諭教授が照明デザインを手がけた学生寮「多摩美オリーブ館」が2022年照明施設賞東京支部審査委員特別賞を受賞しました。「住まう空間にふさわしい色温度の絞り込みと間接照明を中心とした柔らかい光によって計画」、「内部空間の機能照明がそのまま外観のライトアップとなり建築と一体となったダイナミックな照明計画」などが評価されました。



学生寮「多摩美オリーブ館」エントランス 撮影：石黒写真研究所

## PRADAが主催する展覧会に彫刻3年 Zhou Xiaoyuanさんの作品が選出

PRADAの「寅年のアクション」キャンペーンで、彫刻3年・Zhou Xiaoyuan（シュウジョウエン）さんの作品が選出されました。絶滅危機にあるトラの保護とアートプロジェクトの複合キャンペーンで、世界のアートスクールに在籍する30歳未満の学生を対象にトラをテーマにした作品を募集したものです。8月31日から9月18日まで上海での特別展で展示されました。



Zhou Xiaoyuan  
「The Metaphor Of Fragility」

## グラフィック・ポスター・アニュアル2023で多摩美関係者の受賞多数

国際コンペティション「グラフィック・ポスター・アニュアル2023」で、グラフィックデザイン・柏大輔非常勤講師が金賞、銀賞、2作品で佳作、同・カリピッポが客員教授が金賞、11年同卒業・河端亞弥さんが金賞および銀賞、同・高橋庸平准教授が銀賞および佳作、01年同卒業・御法川哲郎さんが銀賞、05年デザイン卒業・下總良則さんが銀賞を受賞しました。

## 第4回いりやKOUBOで卒業生の大井真希さんが大賞を受賞

「第4回いりやKOUBO」にて17年工芸卒業・大井真希さんが大賞を受賞しました。また、19年同卒業・千葉洗里さんが準大賞、19年同卒業・山田千裕さんと大学院同2年・山村椿菜さんが入選しました。本展は日本の若い才能を発掘・応援することを目的として、いりや画廊が企画している彫刻公募展で、2年に一度開催されているものです。

## 米谷ひろし教授が世界三大デザイン賞の2つを受賞

環境デザイン・米谷ひろし教授が手がけたアーティゾン美術館のための椅子「KYOBASHI」が、「RedDot Design Award」においてベスト・オブ・ザ・ベスト賞を受賞しました。また、米谷教授が代表を務めるTONERICO:INC. がデザインした旅館「SOKI ATAMI」が「iF DESIGN AWARD 2022」を受賞しました。



米谷ひろし  
「KYOBASHI」

## 吉村純一教授が設計に携わった建築物が第63回BCS賞を受賞

環境デザイン・吉村純一教授（株式会社ブレイスメディア パートナー）が設計に携わった「早稲田大学37号館 早稲田アリーナ」が、「第63回BCS賞」を受賞しました。本賞は一般社団法人日本建設業連合会が日本国内の優秀な建築作品を表彰するもので、良好な建築資産の創出を図り、文化の進展と地球環境保全に寄与することを目的に毎年行われています。



早稲田大学37号館  
早稲田アリーナ

## 金子勲矩助手のアニメーション作品が国内外の映画祭で受賞・入選

グラフィックデザイン・金子勲矩助手のアニメーション作品「Magnified City」が「ASK ? 映像祭」でASK ? 賞（審査員賞）を受賞しました。本映像祭は、art space kimura ASK ? が主催するコンペティションで、新しい才能の発掘と若手作家に発表の場を提供することを目的に毎年行われています。また、受賞作品は「バンクーバー国際映画祭」など国内外の数々の映画祭で入選、上映されています。



金子勲矩「Magnified City」



## TOPICS

メルセデス・ベンツ日本株式会社との  
連携協力協定を締結

このたび、本学はメルセデス・ベンツ日本株式会社との連携協力協定を締結しました。これにより、同社が1991年より30年以上継続している文化・芸術支援活動「メルセデス・ベンツ アート・スコープ」の2022-2024年における新プログラムにパートナーとして参画し、次世代アーティストの育成と国際交流を支援していきます。9月16日、同社主催により行われた「EQ House × 久門剛史」展のレセプションに、同社フェリックス・ブリッチュ副社長と建畠哲学長、小泉俊己学部長が出席。新プログラムの概要が発表されました。



写真左からフェリックス・ブリッチュ副社長、建畠哲学長、久門剛史さん、小泉俊己学部長

2人のウクライナ支援学生が来日  
戦後復興に関する研究を開始

本学は、戦禍のウクライナで厳しい状況下にある芸術を志す学生たちを支援するべく、研究・制作環境を提供するプログラムを行っています。このたび、2人の学生が来日し、支援を開始しました。2人は日々激化する戦火の中で戦後の復興を見据え、本学の支援プログラムに応募しました。アリス・チェンさんはプロダクトデザイン専攻に所属し、戦争によって破壊された地域で建築材料をリサイクルする方法を研究します。ポーダン・セレディアクさんは環境デザイン学科に所属し、都市再建の考え方やプロセスのガイドライン作成に取り組みます。



写真左からアリス・チェンさん、ポーダン・セレディアクさん

夏と秋の2回にわたり  
オープンキャンパスを開催

7月16日・17日、八王子キャンパスで夏のオープンキャンパスを開催しました。昨年同様、感染症対策の観点から完全予約制とし、作品展示や授業公開、教員や学生との相談に特化して「大学での学び」を体感してもらうことを重視。2日間で合計6,735名の参加者がありました。7月30日にはオンライン版、9月18日には進学相談会メインのオープンキャンパスも実施しました。現在、大学公式Webサイトで夏のオープンキャンパスの様子をダイジェストでお届けするオンライン・キャンパスツアー動画を公開中です。在学生によるインタビューも収録しています。



夏のオープンキャンパスの様子

細田守監督との対話形式による  
アニメーションの特別講義を開催

9月16日、レクチャーホールで、アニメーション映画監督の細田守さんの特別講義が行われました。「今の大学生がどんなことを考えているのか話を聞いてみたい」という細田監督からのオファーに、グラフィックデザイン・野村辰寿教授と芸術学・小川敦生教授が呼応して実現したものです。全学科全学年を対象とした公開授業で、事前募集で選ばれた学生のポートフォリオや企画書を軸にして細田監督との対話を行いました。登壇した学生、聴講した学生たちは、日本を代表するアニメーション映画監督の考えに直にふれ、有意義な時間を過ごしました。



細田守監督



## 建築家・内藤廣さんと未来の建築を考える シンポジウムを開催

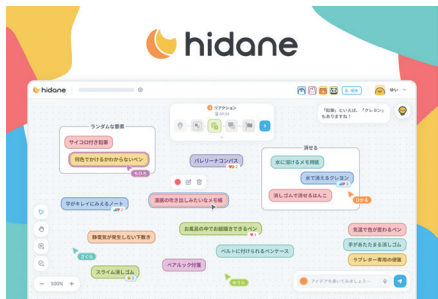
6月10日、環境デザイン学科シンポジウム「岐路に立つ現代建築——未来の建築はどうあるべきか？」が開催されました。近年、渋谷の都市開発や東日本大震災の復興プロジェクトを手がけている建築家で東京大学名誉教授の内藤廣さんを迎え、リベラルアーツセンター・飯島洋一教授と環境デザイン・松澤稔教授を交えてのトークも行われ、これからの建築について考えました。



内藤廣さん

## 情報デザイン1年の三橋さんが経済産業省・ 未踏事業「スーパークリエイタ」に認定

経済産業省が独立行政法人情報処理推進機構（IPA）を通じて実施している「未踏IT人材発掘・育成事業」で、修了者のうち特に卓越した能力を持った者が認定される「スーパークリエイタ」に情報デザイン1年・三橋優希さんが選ばれました。「チャット型インタフェースを用いた集団発想法支援ツール」の開発に取り組み、発想力や技術力などが高く評価されました。



三橋さんが本事業で開発したWebアプリケーション「hidane」

## 情報デザイン4年生が国立民族学博物館の 特別企画展に出展

情報デザイン・楠房子教授のゼミの4年生が、大阪・吹田の国立民族学博物館で9月から開催中の特別企画展「Homō loquēns『しゃべるヒト』～ことばの不思議を科学する～」に出展しています。「コトバを身につける仕組み」というテーマでチームごとに制作した点字付きのボードゲームやカードゲームなど3作品が1か月ごとに展示されています。11月23日までの開催です。



9月に展示された「Q-BE」チームの作品

## 二子玉川の地域住民とふれあう 「タマリバーズ」開催

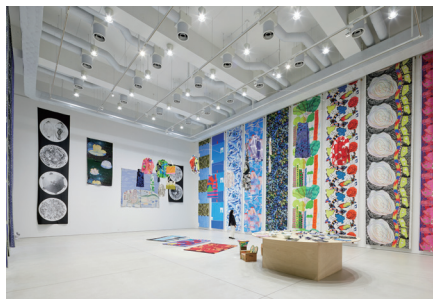
学生が主体となって実施する地域連携アートプロジェクト「タマリバーズ vol.11」が、10月8日・9日、二子玉川ライズ ガレリアで行われました。広場演劇「ふたこのわたし 真夜中におはよう」では学生たちの躍動感あふれるステージが展開されたほか、ワークショップや多摩美生の学生作品を販売するアートマーケットにも大人から子どもまで多くの人を訪れました。



広場演劇「ふたこのわたし 真夜中におはよう」の様子

## テキスタイルデザイン・高橋名誉教授の 退職記念展を開催

3月に退職したテキスタイルデザイン元教授である高橋正名誉教授の退職記念展が、7月2日～9日、アートテークギャラリーで行われ、80年代に手がけられたものから近年に至るまでの作品や原画などが一堂に会しました。高橋名誉教授は93年に非常勤講師として着任以降、本学のテキスタイル教育に長きにわたって携わり、家族連れで訪れる卒業生の姿も多く見られました。



高橋正名誉教授 退職記念展の様子

## 中谷ミチコ講師の作品が 丸の内のパブリックアートに

彫刻・中谷ミチコ講師のパブリックアート作品が第43回丸の内ストリートギャラリー（主催：三菱地所株式会社、監修：公益財団法人 彫刻の森芸術文化財団）に選定されました。芸術性豊かな街づくりを目指すプロジェクトで、丸の内仲通りを中心に世界で活躍する現代アーティストの作品を数年に一度入れ替えながら展示しています。中谷講師の作品公開は25年までの予定です。



中谷ミチコ「小さな魚を大事そうに運ぶ女の子と金ピカの空を飛ぶ青い鳥」



## 連携校の高校生36名が 多摩美を体験する授業に参加

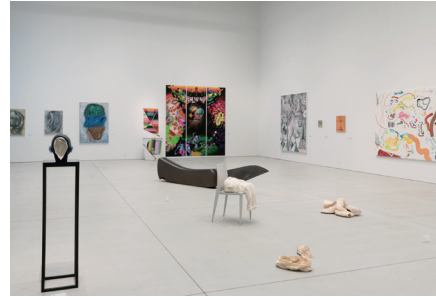
7月16日、8月4日・5日の3日間、八王子キャンパスで高大連携授業が行われました。高校生に大学の実習や講義を受講する機会を設ける取り組みで、連携校の生徒36名が参加し、「はじまりの美術・デザイン」講座や、油画・版画・環境デザインの実技講座を受講しました。参加した高校生は「多摩美を志望しているので応募した。高校ではできないような経験ができた」と話しました。



環境デザインの授業ではゴミ袋をつなぎ合わせて巨大な空間を制作

## 42名の助手・副手による展覧会を 八王子と六本木の2会場で開催

9月5日～21日、「多摩美術大学 助手展2022」がアートテークギャラリーで行われ、全学科総勢42名の助手・副手が参加し、絵画、彫刻、立体、映像、写真、インスタレーションなどの作品が展示されました。また、9月8日～24日には六本木・東京ミッドタウン内のTUBにて「助手展サテライト」も開催され、2会場を映像でつなぐなどの新たな試みも行われました。



「助手展2022」アートテーク会場の様子

## 東工大、一橋大との連携プログラム始動 海外協定校の教員による授業を実施

東京工業大学、多摩美術大学、一橋大学が連携して推進する「Technology Creatives Program」（通称「テックリ」／文部科学省「大学等における価値創造人材育成拠点の形成事業」採択プログラム）が8月からスタートしました。9月7日には本学の海外協定校であるRoyal College of Art Helen Hamlyn Centre for Designの教員が「Creative Leadership」をテーマに授業を行いました。



Royal College of Artの修了証を持つ受講生の皆さん

## 六本木アートナイト2022に TUBから「インテリア」を出展

9月17日～19日、美術館や大型複合施設が集積する六本木の街全体を会場として開催された「六本木アートナイト2022」に、TUBから10年大学院油画修了・小野冬黄さんによる作品「インテリア」を出展しました。東京ミッドタウン3階の「インテリア&デザイン」と分類される店舗が多く並ぶフロアで、「インテリア」と「作品」の認識を深めるものとなりました。



小野冬黄「インテリア」

## 三宅一生活氏のご逝去に寄せて 青柳理事長による寄稿

8月5日に逝去された三宅一生活氏（63年図案科卒、享年84歳）の訃報に接し、謹んで哀悼の意を表するとともに、心からお悔やみ申し上げます。

同氏との親交も深かった青柳正規理事長のコメントを掲載いたします。

三宅一生活さんが長逝の途につかれました。国内はもとより海外のデザイン＆アートの世界で一生活さんはきわめて大きな存在感を示していたために、いまは主のなくなったほこのままただ途方に暮れるだけです。美しさを見極める力、よきものを生み出す力、本質を考え抜く力、そしてそれらを融和させる一生活さんの人格、一生活さんが卒業した多摩美術大学で学び働くことができる歓びと誇りを私たちに一生活さんは与えてくださいました。心からのご冥福をお祈りいたします。

2022年8月10日  
学校法人多摩美術大学 理事長 青柳正規

## 人事異動

### 退職

- 広報部広報課  
及川雄貴 総合職  
(2022年6月30日付)
- 附属メディアセンター映像センター  
岸本宏太 常勤嘱託  
(2022年9月30日付)

### 新規採用

- 附属アートアーカイブセンター事務局  
上原彰子 常勤嘱託  
(2022年7月1日付)
- 財務部経理課  
坂上祐亮 常勤嘱託
- 附属メディアセンター映像センター  
吉羽尚人 常勤嘱託  
(以上、2022年10月1日付)

## 訃報

鈴木志郎康 教授  
(本名：鈴木康之)

1990.4.1～  
教授  
(美術学部二部芸術学科)

1999.4.1～  
教授  
(造形表現学部映像演劇学科)

2006.4.1～2007.3.31  
客員教授

2022.9.8  
逝去 87歳

※11月12日に上野毛キャンパスで偲ぶ会を開催予定です。

謹んでお悔やみ申し上げます。  
ご冥福をお祈りいたします。



## 多摩美術大学美術館



多摩市落合1-33-1 | 10:00~17:00 (最終入館16:30まで) | 火曜休館 | 一般=300円/20名以上の団体=200円 (障がい者および付添者、学生以下は無料、卒業生も校友会カードの提示により無料)

10/1(土) - 12/25(日)

### 「テキスタイルのチカラ」展



テキスタイルは人類の創造の歴史の中で、世界の民族の衣生活に根ざしてきました。伝統的な地域文化や素材や技法をもとに人々に育まれたテキスタイルは、身体を守り、育み、人間の心に希望を与える「光」に満ちています。そして現代日本のテキスタイルを振り返ると、限界突破するような素材と手わざとテクノロジーを探究するクリエイターたちによって独自のテキスタイルが生み出され世界で高く評価されてきました。

本展は本学所蔵のテキスタイルコレクションを中心に鑑賞する場と、現代日本のテキスタイル

を触って体感する場の2部で構成し、伝統的な染織技術を礎に自由な発想でつくられた個性豊かなテキスタイルを紹介します。テキスタイルを「鑑賞する」だけでなく「触わり、身にまとう」ことで、デザインや素材の魅力、作り手の想いなどを皮膚感覚で体感しお楽しみください。

## アキバタマビ21



タマビが運営する新しい創造の場 3331 Arts Chiyoda内にあるアキバタマビ21は、若いアーティストたちが展覧会を行うスペースです。卒業後のキャリア形成支援を目的としており、企画から広報物・アーカイブ作成まで自ら手掛ける企画展を、年間約8回開催しています。

千代田区外神田6-11-14 3331 Arts Chiyoda 201・202 | 12:00~19:00 (金・土は20:00まで) | 火曜休館 | 入場無料

10/28(金) - 11/27(日)

### 第101回展「ao」

若手作家それぞれが向き合う「青」という色彩についてひととき、「青」から受け取る時代性について発見を促す。

出品作家=梅原義幸、鈴木初音、高橋ヨシ、木下理子、プーカリン、高橋美乃里

キュレーター=田坂和実



12/3(土) - 2023/1/9(月・祝)

### 第102回展「コーヒー片手におにぎり」

優しく確かな日常観察から健やかに作品を生み出す、音楽・アニメーション・写真・映像・絵画の作家5名による展覧会。

出品作家=岡村さくら、ささきえり、喰田佳南子、常間地裕、根本篤志

## アートテーク



八王子キャンパス内 | ギャラリー開場時間10:00~17:00 (展覧会による) | 日曜・授業日以外の祝日休館 | 入場無料

> 以下は、ギャラリーで開催予定の展覧会です。最新情報はHPでご確認ください。

11/14(月) - 30(水)

### 柘野俊明退職記念展「禅と日本庭園」

### 田淵諭退職記念展「光と祈りの建築」

### 八王子キャンパス展 ~坂に建てる 八王子キャンパスの半世紀~

※19日・20日・27日は休館

## アーケードギャラリー



八王子キャンパス図書館内 | 展示時間9:00~18:30 | 入場無料

12/7(水) - 8(木)

### Pacific Rim 最終発表会 “Ceramic Futures”

## 多摩美術大学 TUB



“まじわる・うみだす・ひらく”をコンセプトに、オープンイノベーションによる価値の創出、幅広い層に向けたデザインやアートプログラムの提供、学生作品の展示・発信を通してデザインとアートの持つ創造性と美意識を社会とつなぐ場を提供しています。

港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー5F (東京ミッドタウン・デザインハブ内) | 11:00~18:00 | 入場無料

10/26(水) - 11/6(日) ※会期中無休

### 第20回企画展「デザイン人類学宣言!」



デザイン人類学とは、いったいどのような実践なのでしょう。本展示では、デザインと人類学との関係を見つめ直し、共創の可能性を探ります。会期中、人類学者とデザイナーらによるトークイベントも開催します。

## EXHIBITION & THEATER

9/10(土) - 11/13(日)

越後妻有清津倉庫美術館

越後妻有 大地の芸術祭 2022 企画展  
「大地のコレクション展2022」

越後妻有里山現代美術館MonET 常設展  
彫刻・中谷ミチコ 講師

9/14(水) - 12/26(月)

国立新美術館1Fロビー

NACT View 01 Museum Static Lights  
油画・玉山拓郎 非常勤講師

10/10(月・祝) - 12/11(日)

茨城県桜川市

雨引の里と彫刻 2022

工芸・塩谷良太 非常勤講師

10/15(土) - 11/12(土)

タカ・インシギャラリー(complex665)

石田尚志「庭の外」  
油画・石田尚志 教授

11/23(水・祝) - 12/5(月)

高島屋新宿店10F 美術画廊

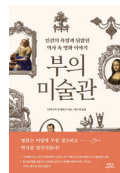
林 茂樹 展  
DISCOVER CERAMICS  
工芸・林茂樹 非常勤講師

11/30(水) - 12/19(月)

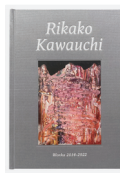
国立新美術館

DESIGN MUSEUM JAPAN展  
集めてつなごう 日本のデザイン  
テキスタイルデザイン・皆川明 教授  
統合デザイン・柴田文江 教授

## BOOK



ビジネス戦略から読む美術史 (新潮新書) 韓国語訳  
富の美術館-人間の欲望の歴史における名画  
西岡文彦 著 (リベラルアーツセンター教授)  
シン・スジ 翻訳 | BHT 3月31日刊 | 17,500ウォン



Rikako Kawauchi: Works 2014-2022  
川内理香子 著 (17年大学院油画修了) 蔵屋美香 論考執筆 (油画客員教授) 美術出版社 | 7月14日刊 | 6,600円 (税込)



手の中に抱く宇宙 イケムラレイコ+塩田千春 対話集  
塩田千春 著 (大学院教授、他 美術出版社 | 4月15日刊 | 3,300円 (税込)



Q/フェイクスペース  
野田秀樹 著 (演劇舞踊デザイン教授) 新潮社  
7月21日刊  
2,090円 (税込)



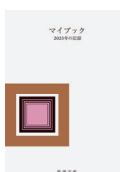
本日の絵 皆川明挿画集  
皆川明 著 (テキスタイルデザイン教授) 葛西薫 アートディレクション (グラフィックデザイン客員教授) つるとはな | 4月28日刊 | 3,960円 (税込)



開き直る禅思考  
柘野俊明 著 (環境デザイン教授) 内外出版社  
9月3日刊  
1,540円 (税込)



ポルトレ 普及版  
上田義彦 著 (グラフィックデザイン教授) 田畑書店  
6月8日刊  
4,950円 (税込)



マイブック 2023年の記録  
大貫卓也 企画・デザイン (グラフィックデザイン教授) 新潮社  
10月1日刊  
440円 (税込)

「TAMABI NEWS」では受賞や活動報告を募集しています。

> メール (news@tamabi.ac.jp) あるいは右のQRコード「Activity News 情報投稿フォーム」からお知らせ下さい。



Tama Art University

多摩美術大学 広報誌「TAMABI NEWS」2022年10月31日発行 第31巻 第2号 通巻91号  
発行: 多摩美術大学 広報部広報課 東京都八王子市鎌水2-1723 電話: 042-676-8611 (代表)

